

一般財団法人調布市武者小路実篤記念館
平成30年度 第1回 定時評議員会
議 事 録

一般財団法人調布市武者小路実篤記念館

一般財団法人調布市武者小路実篤記念館

平成30年度 第1回 定時評議員会

日時 平成30年5月2日（水）

午後4時 開会

場所 調布市東部公民館
学習室

出席役員

理事長	武者小路 知行
常務理事	大 木 正 勝

相談役	福 田 宏
-----	-------

出席評議員（5人）

評議員	武者小路 信和
評議員	浅 井 京 子
評議員	瀧 田 浩
評議員	小 西 聡
評議員	齋 田 文 雄

事務局	局長代理	福 島 さとみ
	主幹	生 野 正 毅
	次長	伊 藤 陽 子
	総務係主任	石 井 めぐみ

（午後5時42分 閉会）

[議事次第]

－理事長挨拶－

第1 議題

(1) 審議事項

- ア 議案第1号 議事録署名人選出について
- イ 議案第2号 平成29年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館事業報告（案）の承認について
- ウ 議案第3号 平成29年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館収支決算書（案）の承認について

(2) 報告事項

- ア 報告第1号 平成30年度調布市議会第2回定例会に提出する平成29年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館の経営状況報告について

第2 その他

○事務局　それでは、定刻になりましたので、ただいまから、平成30年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館第1回定時評議員会を開催させていただきます。

まず初めに、平成30年度における私ども記念館の職員体制でございますが、定期人事異動等に伴う職員の異動はなかったことから、武者小路理事長、福田相談役をはじめとして、昨年と同様の人員組織体制で、1年間、事業の運営に当たってまいりたいと思っております。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、当財団でございますが、ただいま、実篤記念館及び実篤公園につきまして、指定管理者として、調布市のほうから、事業を受託させていただいております。本年4月をもちまして、ちょうど5年目に、指定管理者の最後の指定管理期間となります。

このことから、今年度中に、次の5年間の平成31年度から平成35年までの指定管理者の選定作業がございます。私ども一般財団法人実篤記念館につきましても、再度、指定管理者の選定を受けるべく、1年間、準備を行ってまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

また、それにつきましては、今後、臨時の理事会及び評議員会を開催して、皆様にご指導、ご意見をいただくことになっておりますので、あわせてよろしくお願いいたします。

お手元のほうには、今日の議事のほかに、展示会等の参考資料を配付させていただいておりますので、後ほど事務局のほうからご説明いたしますので、ご確認をお願いいたします。

では、会を始めるに当たりまして、武者小路理事長から一言ご挨拶を申し上げます。

よろしくお願いいたします。

○武者小路理事長　どうも今日はお忙しいところをありがとうございます。

お天気のほうは、ちょっと怪しい雲行きになっておりますけれども、速やかに議事を進行させて、雨の降らないうちに帰ればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

今、お話にもありましたけれども、指定管理者としての最終年で、当然、次期も指定管理者になるべく、努力をしてまいりますので、皆さん方にも、ご協力をお願いいたします。

そして、新しき村も100周年ということで、ちょうど記念の節目の年

になります。やはり、実篤を、一遍、若い人たちも含めて、皆さん方に知ってもらうための機会にしていきたいと思いますので、その辺もあわせてよろしくお願いいたします。

○事務局　　どうもありがとうございました。

それでは、これから評議員会を開催させていただきます。

まず、評議員会の議長でございますが、一般財団法人調布市武者小路実篤記念館の定款第18条の規定によりまして、評議員会に出席されている評議員の中から、選出することになっております。いかがいたしましょうか。

（「事務局一任でお願いします」）

○事務局　　ありがとうございます。

ただいま、事務局一任との声をいただきましたので、私ども事務局のほうに、ご一任させていただいてよろしいでしょうか。

（「異議なし」）

○事務局　　ありがとうございます。

異議なしとのお声をいただきましたので、事務局から議長を指名させていただきます。

小西聡評議員に議長をお願いいたしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、これより小西評議員が議長として議事進行をいたしますので、進行を交代させていただきます。

○議長　　それでは、私が議長を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

議事に入ります前に、本日の評議員会の効力について、事務局から報告をお願いいたします。

○事務局　　本日の評議員会には、評議員5名の全員が出席をいただいておりますので、一般財団法人調布市武者小路実篤記念館の定款第19条に規定する定足数に達していますことをご報告申し上げます。

○議長　　ありがとうございます。

定足数に達しているということですので、これより議事次第のとおり進めてまいります。

まず初めに、議案第1号「議事録署名人の選出について」を議題といたします。

事務局から提案理由のご説明をお願いいたします。

○事務局 議事録署名人につきましては、一般財団法人調布市武者小路実篤記念館の定款第22条の第2項の規定に基づき、ご出席いただいた評議員の皆さんの中から、2人を選出することになっております。いかがいたしましょうか。

(「事務局一任」)

○事務局 ありがとうございます。

ただいま、事務局一任との声をいただきましたので、事務局一任とさせていただきますてよろしいでしょうか。

(「異議なし」)

○事務局 ありがとうございます。

異議なしということですので、事務局からご指名をさせていただきたいと思います。

武者小路信和評議員と浅井京子評議員を議事録署名人に選任させていただきます。お二方、どうぞよろしくお願いいたします。

○議長 続きまして、議案第2号「平成29年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館事業報告(案)の承認について」を議題といたします。

事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局 議案第2号「平成29年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館事業報告(案)の承認について」。上記の議案を提出する。平成30年5月2日。提出者 一般財団法人調布市武者小路実篤記念館 理事長 武者小路 知行。

提案理由。平成29年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館事業報告の承認を求めるため、提案するものであります。

それでは、事前にお配りしております平成29年度の事業報告(案)をごらんいただきながら、ご説明をまいります。

まず、1ページ目の一番最初のところでございますが、平成29年度は、一般財団法人調布市武者小路実篤記念館が発足して、5年目を迎え、指定管理者としての業務は、4年目となりました。

この後に続きますものは、計画のときにごらんいただいておりますので、割愛をさせていただきまして、一旦、8ページをごらんいただければと思います。

平成29年度の事業といたしましては、外部との連携ということに力を注ぎました。まず、オンラインゲームの「文豪とアルケミスト」とのコラボレーション企画を、夏休みの展覧会企画の期間中に開催をいたしました。

このオンラインゲームとのコラボレーションの企画中は、来館者が、例年の同時期の3.4倍程度になっておりまして、大変飛躍的に伸びたということにつながりました。

こういったことの結果といたしまして、平成29年度の年間利用者が、実篤記念館の入館者数が1万1,233人、公園を含む総利用者数が4万1,120人という数字になっております。

本日配付しました資料の中に、参考資料の2というものがございまして、こちら、折れ線グラフがついているものなんですけれども……。

○事務局 封筒の中にございます。こちらに、実篤記念館・実篤公園3年間の利用者推移というものがございます。この折れ線グラフの下に、過去、平成27、28、29年度のそれぞれの入館者数などが、表にまとめてあるものがございますけれども、これで、実篤記念館の利用者数が1万1,233人で、この表の平成27年度、9,956人が、これまでの過去最高だったんですけれども、それに対して、大きく伸びたということが、これでおわかりいただけるかと存じます。こういった形で、入館者が増加したということが、平成29年度の大きな特徴かと思われれます。

この後は、10ページ以降の表を見ながら、ご説明してまいります。

事業内容の展示事業のところでございますが、年間、特別展が2回、テーマ展、企画展が5回ということですが、春の特別展といたしましては、「武者小路実篤の出版事情～『白樺』『大調和』を中心に～」という展覧会を開催いたしました。実篤の出版活動についてということで、出版物や自筆資料に加え、出版に関する、あるいは、印刷に関する資料なども、あわせて展示をしましたので、そういったものは、紹介される機会も珍しいということもありまして、武者小路実篤への興味だけでなく、出版や印刷への関心から、お客様にお入りいただけたかという結果になっております。

特別展でございますが、もう一つ、秋の特別展、「素直に楽しむ 武者小路実篤と民藝」という展覧会を開催いたしました。こちらは、武者小路実篤が収集していた、コレクションしていた美術品の中から、民藝、民藝品を取り上げて、平成28年度、平成29年度の2カ年にわたって、日本民藝館の協力を得て、調査をし、その結果を、こういった形で、皆様にごらんいただくという展覧会です。

民藝を提唱者した柳宗悦が、武者小路実篤とともに、『白樺』を創刊したメンバーでもあります。民藝であるとか、柳宗悦について関心のある方も、根強くありまして、そういった方々にもごらんいただけた展覧会に

なりました。

展示事業といたしまして、その特別展の1つ下ですが、高鍋町美術館での特別展。こちらは、外部との連携ということにもなるんですけども、平成30年の11月に、実篤が創設いたしました新しき村が、100周年を迎えることから、それを記念して、前年に高鍋町が企画した日向新しき村の隣町になりますが、そちらが企画した展覧会でございます。

この展覧会につきましては、当財団が、企画の中身、構成であるとか、資料の選定、借用、展示構成、ただ、実際の展示作業までを含めまして、全面的に受託をして、開催をしたということでございます。

この展覧会に関しましては、新しき村の地元、東京の調布市の武者小路実篤記念館からは、遠隔地という位置づけ、場所で、実篤、新しき村を紹介し、また、再認識していただける機会となったと考えております。

また、展示事業で、もう一つ、今回ご紹介するものは、表の3番目に、郷土博物館との共催を行っているということでございます。外部連携の1つとしましては、市内の施設との連携ということもございまして、郷土博物館が収蔵し、また管理しております遺跡関係の資料を……。実篤公園の遺跡調査の際に出た遺物などを、実篤記念館のコーナーを1カ所を使いまして、ご紹介するという形で、連携を図りました。

続きまして、普及事業でございます。講座・講演会におきましては、春と秋の特別展に関連して、それぞれ講演会、講座を開催いたしております。

春は、講演会、「『白樺』を支えた洛陽堂主人 河本亀之助」という講座を開催いたしました。洛陽堂に関する研究書を出版されたばかりの研究者、田中英夫さんにお話しいただくということで、こういった機会はなかなかないということもありまして、出版関係に関心のある方にご来場いただけたということでございます。

13ページになります。特別展に関連いたしまして、講座「民藝と柳宗悦と武者小路実篤」、ギャラリートーク。続けて、日本民藝館で、長く学芸員を務めてこられました杉山享司さんにお話をいただき、また、展覧会を見ながら、解説をしていただくという機会を設けました。

いずれも、それぞれ専門の分野の方から、お話が伺えるチャンスとなりました。

12ページの上のほうですが、夏休みの自由研究サポートでは、平成29年度、新たに行ったサービスといたしましては、実篤事典をつくろうというメニューをつくりまして、こちらは、ワークシートに書き込んで、

簡単な作業で製本ができて、それを宿題として提出できるという形で、学習に役立てるということで行いました。この自由研究サポートは、すっかり定着をしております、期間中は常に子供たちの参加がありました。

平成29年度の特徴的な活動といたしましては、展覧会をよりよく見ていただく、あるいは、理解していただくためのさまざまな工夫ということで、この表でいいますと、例えば、「ちょこっとメモする展覧会鑑賞ノート！」であるとか、「展覧会をじっくり見るためのヒントカード」、13ページで、「実篤の言葉おみくじ」、マニアッククイズなどが、それに当たります。

展覧会をただ見ていると、見逃してしまう、あるいは、集中力が切れてしまうというようなことがありがちなんですけれども、見るための動機をつくっていくということで、さまざまな工夫をいたしました。

本日お配りしました封筒の中の資料の参考資料1がございまして、こちら、写真がたくさん載せてあるんですが、1ページ目の右側の2段目のところに、ヒントカードとおみくじの写真を載せてございます。

「じっくり見るためのヒントカード」のほうは、お貸し出しする形で、これを持って、それぞれのポイントで、解説を見ながら、展覧会が見られるという形のものです。

おみくじのほうは、入館時に、おみくじの形で引いていただいて、その言葉を館内で探したりとか、その言葉を記念に持って帰っていただけるといような形で行いました。

こういったことに、平成29年度は、力を入れて実施いたしました。

学校教育との連携では、毎年、夏休みの自由研究サポートの案内プリントを、小中学生全員に配布しているんですけれども、これの表紙を、3年前から、中学生に描いてもらうようにしております、同じく参考資料1の2ページ目の左下のところに、表紙、第四中学校の美術部の生徒さんに描いていただいたものを載せてございます。こういうふうに、中学生に参加してもらうことで、子供たちにより関心を持ってもらうという工夫をしております。

中学校の図書室でのパネル展示を毎年行っておりまして、こちらも、平成29年度も、3校で行いました。

また、その後につくったものではあるんですが、平成30年度に向けて、学校の図書館展示用のパネルを、新たに3種類、製作いたしました。これは、現在も文庫本で手に入れることができる本を題材として、作品を紹介

して、読書につなげようということで、作品紹介、小説の紹介という形でのパネルを作成いたしました。

平成29年度は、15ページの下の方に、講師派遣がございますが、15ページから16ページにかけてなんですが、平成29年度は、外部からの講師の依頼が多く寄せられまして、これも外部との連携ということになろうかと思っておりますけれども、近隣の市から、具体的には三鷹市から、2回ほど、それぞれ別の施設での講座で、実篤の紹介について、ご依頼を受けたということ。

民間の絵手紙協会からも、講師の依頼を受けております。

また、16ページのほうですけれども、高鍋町美術館での展覧会の際には、ギャラリートークも行っております。

その表の一番最後のところに、北部公民館での芸術鑑賞講座がございますが、こちらにも、市内の他施設との提携ということで、実篤記念館が持つノウハウを、北部公民館で活用という形で、講座を開催いたしました。

17ページ、広報事業でございます。平成29年度の特徴的なこととしては、ツイッターの独自アカウントの開設ということになろうかと思っております。これまでは、調布市のツイッターで、折々発信してまいりましたが、「文豪とアルケミスト」のゲームとのコラボレーションに際して、ゲームユーザーの情報が、インターネットにかなり頼っているということもありましたので、ツイッターで独自の発信をするということで、始めたものでございます。

これによりまして、即時的な、今、起きていることに対する、すぐ発信をするということであるとか、当館の事業ということだけではなくて、実篤に関する情報というものを、こまめに発信するということで、ゲームをきっかけに、関心を持っていただいた方に、関心を継続してもらうということを願って、さまざまな発信を細やかに行うことができたと考えております。

7月に運用を始めて、3月の末日までの間に、ほぼ1,000人ほどのフォロワーを得ることができたので、情報発信の一定の役割を担う形になっているかと考えております。

印刷・編集事業では、例年どおり、パンフレット、解説シート、館報などを発行したんですけれども、昨年度発行いたしました画集、『画をかく喜び』が、予想以上によく売れておりまして、これで、1年後の平成29年度に、増刷ということに至りました。

18ページですが、ぐるっとパス事業なんですけれども、平成29年度も、ぐるっとパスに参加しまして、こちらにあるように、ぐるっとパス独自の広報がされますので、こういったことで、実篤記念館の周知、あるいは、実篤記念館の展覧会の周知に役に立ったかと考えております。

18ページの視察の部分ですが、平成29年度は、こちらをごらんいただいてもわかるとおりに、ゲームとのコラボレーションについて、他の文学館から非常に関心を寄せられまして、コラボ期間中、あるいはコラボが終わってから、その様子などをごらんいらっしゃるというケースが続きました。

また、19ページの一番上に、ミュージアム・エデュケーター研修の視察が入っておりますが、文化庁が実施しておりますミュージアム・エデュケーター研修に館の学芸員が参加したんですけれども、参加した館の実施状況の視察をするということがありまして、その対象としていただきまして、文化庁の職員の方、委員の方々のご視察をいただきました。

その次です。19ページの資料収集・管理です。平成29年度の収集状況は、この表のとおりですが、原稿の購入というところに1点ございますけれども、こちらは、『真理先生』の原稿でございます。『真理先生』の原稿は、長らく寄託という形でお預かりして、活用してきたんですけれども、所有者からのお申し出がありまして、調布市美術作品等収集基金によって、購入して、収集ということになりました。

22、23ページまで飛ばさせていただきますが、資料整理と保存でございます。平成29年度は、これは施設管理のほうとも重なるんですけれども、隔年で行っております収蔵庫の燻蒸を行う年でございましたので、それにかかわるさまざまな作業などを行っております。

そのほかですと、図書の配架を、前年に入れかえたということもありまして、配架場所を照合して、配架記号をデータベースに入れていくということ、大きく行っております。

その次、23ページの下段ですけれども、所蔵品の修復などがございます。武者小路実篤の書画で、しみが出ていたりですとか、汚れ、表具などの傷みがあるものについて、このような作品の修復などを行っております。

24ページの一番上ですが、平成30年度は、新しき村100周年ということで、新しき村関連の資料の展示の機会が増えるということを鑑みて、新しき村に関連した書簡と原稿の複製を製作いたしました。

収蔵品データベースなんですけれども、次の閲覧サービスのところとも

関連してくるんですが、「文豪とアルケミスト」のゲームで、関心を持たれた方々は、読書であるとか、さまざまな調べ物についての関心が非常に高く、まず1つには、閲覧室の利用が非常に増えたということ、収蔵品データベースのリクエスト数というんですけれども、利用も非常に増えております。

ホームページ自体もなんですけれども、収蔵品データベースでの検索が、平成29年度は、非常に増えております。

閲覧サービスのほうで、25ページのところで、集計のところをごらんいただきたいんですけれども、閲覧室の利用者数が、室の利用者数ですけれども、5,037名ということで、前の年は休館期間もありましたので、これが最大数ということではないんですが、やはり、閲覧室の利用が非常に増えたということでございます。

集計の結果だけでなく、我々職員といたしましても、これまで閲覧室には、人がいないというタイミングが結構あったんですが、今はかなりの時間帯で、お客様が1人、2人は、閲覧室にいるというような状況になって、非常に利用がされたと感じる半年でございました。

特別閲覧に関しましては、研究者あるいは他の美術館、博物館などで、展覧会の準備のための実物資料の調査ということで、専門性の高い調査に対応したということでございます。

調査・研究についてです。26ページのほうをごらんいただきたいんですけれども、特別展、展覧会に関する調査は、例年どおり、それぞれ行ってまいりましたけれども、平成29年度で特徴的なことは、日向新しき村と、埼玉もそうなんですけれども、実地、現状調査を行う。伺って、お話を伺う、あるいは、様子などの記録をしてくるという現況調査をいたしました。

また、これに伴いまして、平成30年度の100周年に向けて、記録映像の撮影ということで、日向新しき村、埼玉の新しき村での撮影も行ってきました。

27ページの中ほどですけれども、武者小路実篤が創刊いたしました『白樺』で、同人として参加した長與善郎に関する資料を、お孫さんに当たる長與純三さんからお預かりをしております、お預かりしたのは、もう年度後半でしたので、平成30年度にかけて調査を進めて、その成果をいずれ展覧会でご紹介するというところで考えております。

28ページでございます。自主事業としましては、物品販売ですが、限

定チョコレートは毎年のように行っておりますが、こちらが、例年ですと、1月から、実篤記念館の調布周辺で販売しておりますが、高鍋町美術館の展覧会で、先行販売をしたことが、話題を呼びまして、1月の例年どおりの発売のときに、非常によく売れて、当初思っていたよりも、早く完売をしてしまったという成果を上げました。

クリアファイルと絵はがきについては、新しい絵柄の物をつくりました。手拭ハンカチは、市政功労者表彰の記念品としてお使いいただいたものです。

こうした物販での収益などを使いまして、自主事業を開催しておりますが、28ページの下の段のほうですが、「観梅のつどい」を開催いたしました。この「観梅のつどい」のコンサートにおきましては、博学連携、また近隣との連携ということもございまして、桐朋学園大学の音楽学部の学生さんによるカルテットを開催いたしました。

また、公開ワークショップも、自主事業として行いました。「朗読で感じる実篤」というワークショップは、ただ聞くだけではなくて、参加していただいて、自分で読んでいただくということで、実篤の言葉というものを考えていただくという形で、開催しているものでございます。

もう一度、今度は7ページへ戻っていただきたいと思います。施設管理運営事業でございます。実篤記念館の施設管理運営事業といたしましては、安全・快適・清潔な施設の維持管理ということで、努めております。

開館から32年が経過しておりまして、施設や設備の老朽化などのふぐあいなども起きておりますので、そういったことに対応してまいりました。

また、収蔵庫の二酸化炭素消火設備のガス弁は、義務として、取りかえなければいけないものなんです。3カ年計画で行っておりまして、平成29年度はその2年目ということで、その2年目分を実施いたしました。

先ほども話題に出ましたが、隔年で行っております収蔵庫の燻蒸を、平成29年度、行っております。

実篤公園の日常管理業務でございますが、こちらは、調布市から委託を受けて、受託をして、行っております。この受託は4年目ということになります。公園の公開であるとか、清掃にかかわる事業、警備などについて、緑と公園課と連携をして、実施をいたしました。

9ページをごらんいただきたいと思います。人材育成の点について、ご報告を申し上げたいと思います。

平成29年度は、正職員が、幅広い業務の経験を積むということで、財

団運営の力となるような人材の配置を行っております。学芸員として、10年以上の経験がある中堅職員を、財団経営にかかわる業務を経験させるために、総務係に配置し、総務係で2年間の業務に携わった若手職員で、学芸員の資格を保有している者を、学芸業務を経験させるために、事業係に配置いたしました。

また、職員のスキルアップということで、専門性を高めるために、若手職員が、国であるとか、博物館、文化財にかかわる財団などで実施している研修に参加いたしました。文化財IPMであるとか、照明であるとか、先ほどこっちと出ましたけれども、ミュージアム・エデュケーターであるとか、そういった専門性のある研修。

広報に関する、調布市役所が開催した研修にも参加しています。

また、管理職が、全国美術館会議の小規模館研究部会が開催いたしました研修会「美術館と文学館との連携」という研修に参加いたしております。

こうした研修を通して、博物館職員としての技術の習得と今日的な課題や動向について、情報収集と学習に努めております。

また、若手職員が、経験を積んだ職員から、記念館でのさまざまなこれまでのノウハウであるとか、資料についての知識を継承するために、館内での勉強会も、定期的に行うようにいたしました。

こうしたことで、職員の資質向上を図っております。

簡単ではございますが、事業については以上でございます。

○議長 ありがとうございます。

ただいま、事務局から議案第2号の説明をいただきました。ご質問がありますでしょうか。

（「異議なし」）

○議長 特にないようであれば、内容で異議ないということと存じますので、議案第2号「平成29年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館事業報告（案）の承認について」は、了承することと決定いたしました。

続きまして、議案第3号「平成29年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館収支決算書（案）の承認について」を議題といたします。

事務局のほうからご説明をお願いいたします。

○事務局 議案第3号「平成29年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館収支決算書（案）の承認について」。上記の議案を提出する。平成30年5月2日。提出者 一般財団法人調布市武者小路実篤記念館 理事長 武者小路 知行。

提案理由。平成２９年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館収支決算書の承認を求めるため、提案するものでございます。

それでは、事前にお配りしております収支決算書（案）をごらんいただきながら、ご説明させていただきたいと思います。

まず１ページをごらんください。本財団の決算につきましては、公益財団法人の会計に準拠いたしました財務諸表より、ご説明させていただきます。

１ページ、収支計算書でございます。平成２９年４月１日から平成３０年３月３１日までの収支計算書でございます。一般会計と特別会計を分けて作成しており、なお、左から予算額、決算額、差異、説明として、主な収入、支出の内容をあらわしております。

まず、１、一般会計、Ⅰ、事業活動収支の部、事業活動収入でございます。

事業活動収入は、補助金、指定管理料、受託事業収入、利用料金収入、諸収入からなっております。

事業活動収入の合計は、決算額が１億２,９３０万４,４５０円でございます。予算額との差異は８１万２,４５０円でございます。これは収入でございますので、増という意味合いでございます。

収入でございますが、特に、３、受託事業収入、２、受託事業（展覧会受託）でございます。これは、先ほど、事業報告にございますように、宮崎県高鍋町美術館の展覧会受託に係る収入でございます。３５０万円、収入がございました。

４、利用料金収入でございます。予算額、１の利用料は１００万円でございますが、決算額が１６１万６,３００円、６１万６,３００円の増となります。予算に対して、１６１.６％の増。

また頒布料も、１０万円に対して、決算額が２２万６,８１２円、１２万６,８１２円の増ということで、こちらのほうは２２６.８％の増ということで、全体の収入の増に、かなり貢献しております。

諸収入に関しても、友の会、自販機、利子収入など、若干増の物がございまして、８１万２,４５０円の予算との差異がございました。

次に、事業活動支出でございます。

１、管理費支出でございます。管理費支出は、人件費と財団の運営に必要な事務費からなっております。

１、人件費支出でございます。予算額７,５１３万４,０００円に対して、

決算額が7,241万9,151円、差異が271万4,849円でございます。

それ以降の明細にかかわる物は、人件費の支出は、常務理事1名、職員5名、再任用1名、嘱託職員3名、臨時職員5名の計15名の給与、報酬、諸手当、社会保険、福利厚生、中退金への負担金、職員の旅費になります。

人件費の支出の全体は7,241万9,151円で、予算に対して、96.6%の執行となりました。

職員給与、諸手当、社会保険料に関して、若干、残額が多いように見えますが、これは、前年度の事務局長が再任用職員への変更ということがございまして、それによる残額でございます。

また、旅費49万5,000円が、決算額が37万3,666円ということでございまして、平成29年度の旅費は、大半が日向新しき村への調査が多く占めております。期日がはっきりしていた事業だったので、航空券とホテルの早割を活用し、正規航空券費用より、大幅に縮減できたために、このような残額が出ております。

次に、2、事務費支出でございます。予算額1,012万1,000円、決算額989万8,630円、差異22万2,370円でございます。予算に対しての執行率は、97.8%となります。

残額、差異が大きいものについて、ご説明させていただきます。

負担金が29万2,000円のところ、決算額が13万8,200円、差異が15万3,800円となります。これは、ぐるっとパス、全国文学館協議会の負担金と職員研修が、負担金にかかわる費用でございます。

ぐるっとパスは、1年ごとの実行委員会形式で、年度当初15万円の負担金を支払い、年度末の清算で、赤字がなければ、15万円が戻ってまいります。このため、15万円を最後に戻入しているために、予算の残額は15万3,800円になってございます。

次に、公租公課でございます。41万5,000円に対して、41万4,165円、残額835円となっております。

一般会計からは、指定管理料や受託事業収入、利用料金収入、諸収入が課税対象となり、総額に対して、課税収入割合で、特別会計と分けております。

平成29年度は、一般会計が85.08%、特別会計が14.92%でございます。このため、消費税の総額が45万5,200円でしたので、一般会計の消費税支出額は38万7,284円となりました。この費用が、

公租公課の大半を占めております。

次に、繰出金でございます。決算額は7万円です。これは、法人税のうち、均等割分の7万円に当たるものでございます。

消費税は、一般会計、特別会計それぞれからの公租公課費から執行できますが、法人税については、一括で支払わなければならないことから、特別会計より一括で支払うため、その費用を繰り出すものでございます。

2、事業費支出でございます。

普及促進事業がございます。普及促進事業費は、展示・普及事業にかかわる実篤記念館の事業の中心となる費用でございまして、予算額

1,206万5,000円、決算額は1,138万9,859円で、差異が67万5,141円となります。

普及促進事業費でございます。展覧会にかかわることとございまして、差異が大きいものに関して、ご説明させていただきます。

役務費に関しては14万2,018円でございます。これは、美術品の運搬等を、効率よく実施したために、契約差額が生まれたものでございます。

また、委託料でございます。506万9,000円の予算に対して、488万3,830円でございます。18万5,170円の残額がございます。この中で、映像作品制作の委託の費用が、かなり大きく占めております。

次に、使用料及び賃借料でございます。42万円の予算に対して、16万980円、残額が25万9,020円となっています。当初、秋の特別展で、日本民藝館より、多くの資料、作品を借用する予定になっておりました。この中で、民藝館は、作品の貸し出しに当たっては、有料となっております。正規の料金で、当初の予算では組ませていただきましたが、さまざまな事業の準備の中で、民藝館が協力していただくということで、借用料の縮減を図ったために、残額が出たものでございます。

2、資料管理事業費の支出でございます。これは、所蔵資料の整備・保存にかかわる費用でございまして、執行率は98.6%でございます。一般需用費は資料整理にかかわる費用、役務費は送料、委託料は作品の修復、複製、保存箱の作成などの委託料になっております。

3、情報提供システム事業費支出でございます。428万円に対して、425万1,036円、残額は2万8,960円ということで、情報提供システムの運用にかかわる費用でございます。99.3%の執行率でございます。

委託料では、平成２９年度に特化したことでいいますと、機器の入れかえに伴うデータの移行の作業の委託がございます。

また、使用料及び賃借料に関しては、情報提供システムの一部再リースをすることで、縮減をしております。

次に、４、受託事業支出でございます。宮崎県高鍋町美術館の展覧会受託事業にかかわる費用でございます。美術品の運搬や保険、作品の借用料、宮崎との往復の旅費が使途した費用でございます。

予算額３２０万円に対して、決算額は３０６万７、４３１円、執行率９５．９％、残額は１３万２、５６９円で、こちらの残額のみは財団に残り、収支差額の最終的な差額の額となっております。

次に、３、施設管理費支出でございます。

１、施設管理運営事業費は、実篤記念館の施設管理運営にかかわる費用でございます。施設管理費用は、予算額は１、５４９万１、０００円に対して、決算額は１、５３６万７、３０７円、残額は１２万３、６９３円でございます。

主に需用費では、光熱水費、修繕費、二酸化炭素消火栓弁の取りかえにかかわる費用、役務費は電話料金、委託料は館内の保守点検にかかわる費用、使用料及び賃借料は駐車場土地の賃借料や監視カメラ等のリース費用でございます。

２、実篤公園管理事業費でございます。予算額は６３８万２、０００円、決算額が６３３万４１２円で、５万１、５８８円の残でございます。

委託料ですが、実篤公園日常管理業務、警備、清掃の委託費になります。

以上で、事業活動支出の合計が、決算額が１億２、４４６万８、１３９円でございます。

また、事業活動の収支差額でございます。決算額は４８３万６、３１１円でございます。

次に、Ⅱ、投資活動収支の部はございません。

Ⅲ、財務活動収支の部でございます。市への返還金がございます。市の返還金でございますが、４７０万３、７４２円になります。これが、補助金、指定管理料、実篤公園日常管理委託料の残額を合計したものでございまして、計算式としては、収支差額から、高鍋の受託事業費にかかわる費用の残額を除いた額が、返還金となります。

Ⅳ、予備費でございます。予備費は、予算額は５万円でございますが、執行はございませんでした。

次に、3ページをごらんいただきたいと思います。当期収支差額は、13万2,569円、受託事業費、展覧会の支出の残額分でございます。前期繰越収支差額はゼロでしたので、次期繰越収支差額は、13万2,569円となります。

次に、2、特別会計でございます。主にミュージアムグッズの物品販売事業が中心となりまして、その収入で、自主事業の費用を賄っているというところでございます。

I、事業活動収支の部で、事業活動収入でございます。自主事業収入ということで、自主事業の参加費、物品販売事業の収入、諸収入、利子収入、繰入金等で組まれております。

自主事業収入が、予算額737万5,000円に対して、決算額が770万3,633円、差異が32万8,633円で、これは予算額より増ということでございます。

事業活動支出でございます。

1、自主事業活動支出。

積立金の支出はございませんでした。

2、物品販売事業支出でございます。予算額は647万円に対して、決算額が598万5,030円、差異が48万4,970円でございます。物品販売事業にかかわる費用でございまして、執行率は92.5%になります。

その中で、商品仕入れに関しては、決算額が490万2,538円となっております。こちらは、商品仕入れの費用でございしますが、仕入費で実際かかりましたものが、503万1,603円でございます。

これが、8ページの貸借対照表をごらんいただきたいと思います。こちらのI、資産の部、1、流動資産の3のほうで、商品がございします。当年度は、105万2,815円の期末在庫でございましたけれども、前年度は92万3,750円で、12万9,065円の増ということでしたので、その分を引かせていただいて、490万2,538円が、決算額となっております。

委託料に関しては、9万9,630円を支出、決算いたしております。後ほど、その他報告で、ミュージアムグッズコーナーの改修プランをご説明させていただきますが、この改修プランの委託にかかわる費用でございます。

公租公課費でございます。予算額47万3,000円に対して、47万

2,721円でございます。法人税一括払いということで、均等割も含めて、40万4,800円。消費税特別会計分6万7,916円が、主たる支出でございます。

特別会計の事業活動支出の計は、決算額が656万7,369円、収支差額に関しては113万6,264円でございます。

次に、Ⅱ、投資活動収支の部はございません。

Ⅲ、財務活動収支もございません。

次に、Ⅳ、予備費の支出でございます。こちらも支出はございませんでした。

このことから、当期収支差額は113万6,264円、前期繰越収支差額が339万6,973円ございましたので、合計して、次期繰越収支差額は453万3,237円となります。この金額は、財団発足から5年間で、繰り越した金額の合計でございます。

次に、5ページをごらんいただきたいと思います。平成29年4月1日から平成30年3月31日までの一般会計と特別会計を連結した事業全体の収支、資産の増減をあらわす正味財産増減計算書でございます。

1、一般正味財産増減の部でございます。

1、経常増減の部。

1、経常収益でございます。個々の当年度の金額に関しては、さきにご説明いたしました収支計算書の内容でございます。右側の欄に、増減の主な理由を記しております。中でも、増減が大きな差がある項目について、ご説明させていただきます。

人件費補助金収入でございます。増減額でございますが、992万9,000円の増となっております。これは、平成29年度に正職員を1名増にしたこと、昇給及び手当の増、非常勤・臨時職員の時給増につながったもので、収入が多くなったものでございます。

次に、指定管理料でございます。前年度に対して、396万9,000円減でございます。これは、空調工事に伴う作品や資料の保管にかかわる作業が終了したことによる減額が、主なものでございます。

次に、受託事業収入でございます。実篤公園の日常管理に関しては、81万6,000円。これは、日常管理にかかわるシルバー人材センターへの人件費の支払いが増になったものでございます。

次に、展覧会受託に関しては、高鍋町よりの展覧会受託が、平成29年度、初めてやりましたので、350万円そのまま増ということになってお

ります。

利用料金収入に関しては、103万252円、先ほど来、ご説明しておりますように、コラボ企画による利用者増ということでございます。

このほかに、諸収入では、講座参加者や友の会の増による微増でございます。

また、頒布資料の売り上げも増ということで、増になっております。

次に、自主事業収入でございます。405万8,330円の増でございます。これは、コラボ企画、限定チョコ、外部販売による売り上げ増、諸収入では、写真貸し出し件数の増ということで、その手数料をいただいておりますので、そういったものを含めて、増になっております。

以上で、経常収益が、当年度、1億3,700万8,083円ということで、昨年度より1,556万8,596円の増となっております。

次に、2、経常費用でございます。

人件費でございますが、職員給料は、先ほど来、申しているように、職員の1名増、常務理事の復活、昇給による増ということで、763万4,280円、また、職員諸手当も、450万4,721円という増になっております。

社会保険料には、やはり、職員1名の増ということもございますが、社会保険対象者が増になった関係で、206万8,001円増となっております。

次に、事務費でございます。昨年度に比べて61万5,673円の増となっております。

報酬費49万5,000円の増は、理事会の開催数、相談役設置による報酬の増でございます。

委託料でございます。7万145円の増になっております。会計事務所のマイナンバー管理にかかわる個人情報の管理ということが、業務として増えたということで、増になっております。

使用料及び賃借料に関しては、11万4,482円の増です。車両や事務用PC、コピー機などを入れかえた関係で、増になっております。

次に、公租公課費でございます。6万386円は、消費税の増ということでございます。

次に、6ページをごらんいただきたいと思います。事業費、全体でございますが、2,045万2,639円。昨年度より、マイナス129万3,972円でございます。

普及促進事業に関しては、空調工事に伴う臨時休館で、終了ということで、103万1,579円、全体で上がっております。

また、その中でも、特に委託料が78万5,647円増ということでございますが、新しき村100年の記録映像の撮影による増でございます。

反対に、資料管理事業費でございますが、前年度に比べ、マイナス540万4,262円となっております。空調工事に伴ういろいろな資料の保管終了による大幅な減となっております。

情報提供システム事業費は、前年より1万1,280円の増ということでございます。

委託料では、32万2,423円増。これは、サーバーの入れかえに伴うデータの移行作業の増ということです。

反対に、使用料及び賃借料は、マイナス31万1,143円ということで、システム機器の一部再リースにより費用の縮減を図りました。

次に、受託事業費でございます。これは、全額、高鍋町美術館で、新しくなっている事業でございますので、306万7,431円が増ということになっております。

施設管理費でございます。全体で、312万4,093円の増でございます。主に委託料の206万7,238円が、増の大きなものでございますが、隔年実施の燻蒸作業と環境調査の費用差額による増でございます。

実篤公園管理事業費に関しては、78万7,504円の増で、これはシルバー人材センターの人件費の増に伴うものでございます。

自主事業でございます。全体では、367万2,010円増でございます。特に物品販売事業は、コラボ事業によるグッズの仕入れ、限定チョコの仕入れ増というところで、全体で物品販売事業は、336万1,169円の増となっております。

また、公租公課費も収益増による法人税、消費税の増で、14万8,418円の増となっております。

自主事業でございます。コラボ企画の開催や自主事業の開催、備品購入費の費用の増ということで、31万841円の増となっております。

以上で、経常費用の合計が、1億3,103万5,508円ということで、2,182万5,247円の増となっております。

当期の経常増減額に関しては、597万2,575円でございます。昨年度よりは、625万6,651円の減でございます。

返還金に関しては、470万3,742円、昨年度より、返還する費用

に関しては、677万5,540円の差がございます。

以上で、当期一般正味財産増減計算書の決算でございますが、当期が126万8,833円、昨年度に比べて51万8,889円の増でございます。

次に、7ページをごらんいただきたいと思います。正味財産期末残高でございます。466万5,806円。増減が126万8,833円でございます。

寄付金は7万円でございます。法人税一括支払いのために、一般会計から均等割の7万円を寄付金会計に入れ、税金の対策ということで、こちらの会計に入れております。

指定正味財産の期末残高は7万円増えて、498万9,768円でございます。

Ⅲ、基本金増減の部は、300万円は変わりません。

Ⅳ、正味財産期末残高は1,265万5,574円、前年度より133万8,833円の増となります。

次に、8ページをごらんください。貸借対照表です。

これは、平成30年3月31日現在の負債を含めた資産の合計をあらわしております。現在の資産などが、どのような状態になっているかを示すものでございます。

I、資産の部、1、流動資産は、現金預金、未収金、商品、仮払金でございます。流動資産の合計が、当年度は3,038万9,033円でございます。前年度より275万1,779円減でございます。

2、固定資産でございます。基本財産を投資有価証券で管理しております。299万5,202円で、4,798円減でございます。

基本財産は、投資有価証券が299万5,202円で管理しておりますが、それ以外の4,798円は、現金預貯金で管理しております。

2、その他固定資産でございます。リース資産が、1,034万3,248円、昨年度に比べ、207万6,144円の増でございます。これは、パソコンや車両、コピー機等のリースの資産に当たるものでございまして、情報提供システムの機器の入れかえ、コピー機1台等、さまざまなリースアップのために、入れかえた等のことにより、資産が増えている状態でございます。

固定資産の合計が、当年度1,333万8,450円。増減が207万1,346円でございます。資産の合計が4,372万7,483円とな

ります。

Ⅱ、負債の部でございます。

流動負債で、未払費用、預り金、未払いの消費税、法人税、リース債務ということで、流動負債の合計、負債合計が3,107万1,909円でございます。昨年度より、201万9,266円減でございます。

基本金は300万円。

寄付金は498万9,768円。

一般正味財産の合計が、466万5,806円でございます。

正味財産の合計が1,265万5,574円ございまして、負債及び正味財産の合計が4,372万7,483円となります。

次に、9ページでございます。財産目録でございます。平成30年3月31日現在の資産と負債の内訳になります。

I、資産の部、1、流動資産、1、現金預貯金です。

小口現金、手元金の金額、7万4,982円。

普通預金が、三井住友銀行つつじヶ丘支店とみずほ銀行仙川支店で管理しております。一般会計用の口座となる三井住友銀行のほうは、1,988万7,112円。みずほ銀行のほうは、特別会計用の口座でございまして、422万606円でございます。

定期預金は特別事業積立金用の口座でございまして、471万2,059円でございます。

未収金は、グッズの売り上げ、ぐるっとパスの精算金。

商品は、期末残高。

仮払金は、平成30年度分のつり銭と手元金のための金額でございます。

以上で、流動資産の合計が3,038万9,033円となっております。

2、固定資産の基本財産が、大阪府公債で5年物、第145回で、管理、運用しておりまして、299万5,202円となります。

リース資産は、リース資産の残高1,034万3,248円ございまして、固定資産の合計1,333万8,450円と流動資産の合計を足しました資産合計は、4,372万7,483円となります。

次に、Ⅱ、負債の部でございます。

1、流動負債でございます。

未払費用が、合計で1,871万4,901円でございます。平成30年3月31日現在の未払金の合計でございます。

2、預り金でございます。115万3,760円。これは、職員の個人

負担金分の社会保険料と市民税の預り金でございます。

3と4が、消費税と法人税の未払金分です。

5、リース債務が1,034万3,248円。

流動負債の合計が3,107万1,909円。

負債合計の合計も同じく、同額でございます。

正味財産合計が1,265万5,574円でございますして、7ページの左側の数字でございます。Ⅳの正味財産期末残高の1,265万5,574円と同額となっております。

次に、10ページでございます。10ページは、財務諸表に関する重要な会計方針が記載されております。この会計は、公益法人会計基準を採用している点、棚卸資産の評価方法、消費税等の処理方法などを記載しております。

次に、11ページをごらんください。4月25日に行われました新井監事、源後監事による業務監査及び会計監査の結果につきましての監査報告でございます。

以上、雑駁でございますが、平成29年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館の収支決算書の説明とさせていただきます。

○議長 ありがとうございます。

ただいま、事務局から、議案第3号の説明をいただきました。ご質問はありますでしょうか。

○小西評議員 よろしいですか。確認をさせていただきたいんですが、ごめんなさい。

大きいところではないんですが、今年、マンションの管理組合の会計監査をやっているんで、ちょうど今やっているので、そういう目で見えていたんです。

銀行預金なんですが、ペイオフ対策で、1,000万円を超えると分けるとか、よくやるのですが、今、これは分けていない状態ということは、多分、会計の束ごとになさっているんだらうなと理解をしています。かつ、残高証明をとるのに、またお金がかかったりなど、いろいろ面倒なコストが乗るので、必ずしも分けるべきではないとは思っていますし、今すぐ三井住友さんが倒れるとは思っておりませんが、その辺、何か方針がおありになるのかという話。

あと、資産の部、9ページの投資有価証券のところの評価額が上がっているのか、下がっているのかとか、これは5年物なので、そのままにせざ

るを得ないんだと思うんですが、その辺をどういうふうに見ていらっしゃるかということのコメントがあれば、教えてください。

○事務局　まず、三井住友の1,988万円余りの会計でございますけれども、これは普通預金となっておりますが、決済口座ということで、1,000万円を超えても、金額は補償される。ただし、利子はつかないという口座になっておりますので、そういう担保がある口座でございます。

次に、投資有価証券でございます。こちらは、実は平成29年度に、以前の持っておりました公債が満期、5月に償還になりまして、組みかえをしたという状況でございます。5年後に300万円になるということで、この公債を購入しております。

ですので、300万円に対してですから、わずかに4,800円ぐらいの増に、5年後になるということでございますが、現在、国債も、その他もろもろも、金利がかなり低くなっているということで、何とかこういう形で、私どもの規模で買いやすい公債ということで、買わせていただき、これで運用管理させていただいている状況でございます。

○議長　わかりました。ありがとうございます。済みませんでした。

その他、特にないですか。

○瀧田評議員　僕も。今、僕、大学で、役職者をやっていて、お金でいうと、寄付金というのは、結構たくさん寄付された方の名前を入り口のところに刻んで、表彰するとかをやっています。

ここだと、どうなっているのかなと思って、寄付金の項目で、後のほうで出てきたんですけれども、どなたかから寄付をいただいて、それを、名前を出して、顕彰するなどといったことは、あんまり……。寄付自体もそんなにないということなのか、名前を出したりしないだけなのか。寄付金について、何か。

○事務局　寄付金の7万円というのは、ほんとうに税務対策のために、一般会計の繰り出した7万円の入り口という形で、使わせていただいている状況です。

○瀧田評議員　寄付をしているという体裁を……。

○事務局　では……。会計上、寄附金というところに入れて、特別会計のほうに、純粋に収入で入れますと、それにまた税金がかかってしまうということで、税金対策で、こういう財務諸表の処理の仕方をさせていただいているという状況でございます。

特に、今のところ、うちの財団に対して、寄付金をいただいているとい

うことは、まだないです。

○瀧田評議員　　そうですか。

○事務局　　はい。

○瀧田評議員　　積極的に取ろうともなさってない？

○事務局　　公益法人ではメリットがありますが。

○瀧田評議員　　うちの大学なんて、もう時期が来ると、役職者で、関連企業のところに出向いて、どうかお願いできないかみたいなことを、大々的にやっているんですけど、やはり、そういうことは、ちょっと違うということなんですか。

○事務局　　違うということではないというか、その行為自体があれば、それをまた財務会計処理をするということになると思うんですが、現在のところ、そういったお申し出がないということが1つ。

一般会計と特別会計を分けて、こういった計上をしているということ自体の意味合いを、先ほど福島の方から申し上げた、寄付金として、計上することによって、税務対策をしているという。少ない金額で、最大の効果を上げるというんでしょうか、そういった部分の考え方ではないかとは思っています。

もちろん、今、評議員がおっしゃったようなことがあれば、それは、また、別途、違う形での税務処理は必要になると思います。

○瀧田評議員　　わかりました。うちの学校法人なんかでも、それで、高額寄付者には、特別に「漱石アンドロイド」のイベントをやりますよみたいなことなどで、いろいろやっているのです。

○事務局　　博物館でも、いろいろな……。東京国立博物館あたりですと、やはり、大きな寄付をいただいた方々には、ネームプレートが、多分、平成館のところあたりに、飾ってあると思います。そういうことは、先例としては、博物館事業の中でも、全くやってないわけではないと思います。

○事務局　　会計的なことをもう少し詳しく言わせていただくと、先ほど、ごらんいただいた正味財産増減計算書というところがあるんですが、そこが、一般の正味財産と指定の正味財産に分かれているんです。寄付ということになった場合には、指定正味財産のほうに……。

要するに、何を言いたいかといいますと、この寄付したお金は、財団、いわゆる武者小路実篤記念館の実篤の顕彰、あるいは新しき村の功績の顕彰、新しき村のそういったものに使わなければいけないよといった意味合いの公益財団法人の中では、法の中ではなりません。

指定正味財産増減の部の寄付金というのは、先ほど申し上げた7万円なんです。ですから、これは、ここに法人税の一括支払いのための一般会計分ということで、均等割の部分で、今、載せているわけなんです、外から入ってきた場合は、ここに入ってくる。それを分けて、帳簿表記するのか。通常は、一般、全部、一緒くたにしてしまいます。

だから、そういうことがあった場合に、全く対応できないということではなくて、もしあった場合は、正味財産増減計算書の指定、要するに、使い道が、もうあらかじめ決まっていますよと、実篤の顕彰のために使ってくださいよというところに入ってくるという形になります。

○事務局 追加でよろしいですか。

490万円余り、今、指定正味財産、期末残高がございますけれども、これは、大半が特別事業積立金のもとになっている金額でございます。これは、事業団時代に残したお金をそのまま、財団が引き継ぐということに、もともと解散時になっておりましたので、その金額が、この正味財産の寄付金のところに、今まで入っているということでございます。

○瀧田評議員 なるほどね。やっとわかりました。面倒くさいことを聞いてしまって、済みません。

○事務局 いえ、とんでもないです。

○瀧田評議員 ありがとうございます。

○議長 そのほかありませんか。よろしいですか。

(「なし」)

○議長 それでは、異議なしと認めまして、第3号議案に関しては、了承することといたしました。

議案につきましては以上となります。ありがとうございました。

続きまして、報告事項です。

報告事項につきまして、事務局のほうからご報告をお願いいたします。

○事務局 それでは、報告事項として1件、まずご報告をさせていただきます。報告第1号「平成30年調布市議会第2回定例会に提出する平成29年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館の経営状況報告について」でございます。

これにつきましては、私どもは調布市における財政監理団体でございまして、財政監理団体につきましては、地方自治法、地方自治法施行令の規定がございまして、必ず、今年でいえば、平成29年度の事業と事業報告、収支計算書をもとに、経営状況について、6月に第2回市議会定例会がご

ざいますが、調布市の市議会のほうにご報告をするという法律上の義務がございます。

つきましては、本日、評議員の皆様にご審議いただきました事業報告及び今の収支決算書をもとに、この報告につきましての案件を作成し、提出をさせていただきたいと思います。

今、申し上げたように、内容につきましては、本日の審議の内容をもとにつくらせていただきますので、あらかじめご了承をいただければと思います。

市議会自体は、内容につきましては、当然、中継もございますし、全て、議事録に記載されておりますので、市議会が行われた際には、それでご確認をいただくことになりますので、よろしくお願いいたします。

次に、今日お配りした参考資料の中に、案として、調布市武者小路実篤記念館の中期基本計画という、この冊子を入れさせていただきました。冒頭に申し上げたように、今年で、指定管理者として、5年目を迎え、今年度中に、来期の指定に向けての選定の準備を、私ども、させていただいておりますが、その来期に向けての5年間についての私どもの中期基本計画を、案としてまとめたところでございます。

今後、指定管理者の選定の前に、また、皆様に理事会、評議員会を開催させていただきまして、私どもが選定させていただく内容について、ご審議、ご了承いただくことになりますので、その際には、今、案となっておりますものを完成形にして、お見せできればと思うんですが、それまでにご一読いただきまして、ご意見、ご指導等を賜ればと思っております。よろしくお願いいたします。

○事務局　それでは、引き続き、本日のお配りした資料について、簡単にご説明させていただきます。

まず、展覧会、春の特別展「誰でも画（え）はかける」、小池邦夫がえらぶ武者小路実篤の書画ということで、先週の土曜日、末の土曜日からやっております展覧会のパンフレットでございます。

今回は、絵手紙協会の創立者である小池邦夫さんを監修者にお招きした展覧会でございまして、小池先生に、冒頭、原稿を書いていたいたり、それぞれのコーナーでの1つずつのお言葉というか、リード文を書いていたいて、構成しております。

なお、この展覧会で、学芸員の佐藤杏が展覧会を担当しておりまして、平成29年度に、正式な正職に採用した者がやっております。彼女は、非

常勤としては、5年間、経験がある方でございましたけれども、今回、初めて、特別展を担ったというものでございますので、また、展覧会をまだごらんいただいてないようでしたら、ごらんいただければと思います。

また、5月23日には、小池先生の講演会が、たづくりでもございますので、お時間がございましたら、ぜひよろしくご参加いただければと思います。

次に、参考資料1、2、3というものをご紹介しております。

本年、平成29年度の事業記録のグラフィック版というか、報告のグラフィック版で、要点を画像に集めたものでございますので、あわせて、ごらんいただければと思います。

また、参考資料2でございますが、3年間の利用者推移ということで、平成29年度は、8月に非常に山となって、かなりのヒル、山ができていくという状況でございますが、実篤公園、記念館、旧邸利用者ともに、この時期に、かなり集中して、増になっているということでございます。そういった3年間の推移をごらんいただければと思います。

次に、資料3でございます。平成29年度の利用者アンケートの報告でございます。これは、昨年度と一変いたしました。これまで、回収率が5%程度、5%から10%程度でございましたけれども、これまでも、回収率をアップさせようという目標がございました。

その中で、まず、これまで休憩コーナーに置いておくだけのアンケートを、窓口で必ず入館した方に手渡しをし、回収率を高めたということがございますが、入館者1万1,233名に対して、アンケート回収が2,729枚、回収率24.3%と、飛躍的に多くなりました。

1つは、8月の「文アル」とのコラボでございまして、こちらは、「文豪アルケミスト」のファン層は、アンケートに答えていただくということが、また館とつながることであると感じていまして、コメントも非常に多くなっております。

また、要望や傾向、こういったものを酌み取り、事業活動への回収をしていきたいと思っております。

顕著なところでご紹介しますと、1ページの年代というところで、ちょっと見にくいですが、20代が872人おります。昨年度、5%だった比率が、31.9%を占める。30代に至っては、4.6%だったものが、やはり15%増えるという状態でございます。

また、どういうところからいらっしゃったかというところでいいますと、

東京以外のところもかなり広がっていますし、他府県が非常に多くなっていて、全国各地から内訳を書いておりますが、1ページから2ページで、北は北海道、南は沖縄までということで、かなりの件数の方が、各地からいらしていただいたということが、顕著だと思っております。

また、7の情報でございます。これは、複数回答ではございますが、インターネットで情報を得たというものが、1,300人おりまして、昨年度、16.8%だったにもかかわらず、47.6%と、飛躍的に増えている。

これは、「文豪アルケミスト」の子たちが、そういうものをよく利用していることでもあります。高齢者でも、インターネットでという回答も、かなり増えてきておりまして、やはり、情報ツールとしてのインターネット、SNSの利用は、非常に高まっていて、見逃せないなと考えております。

次に、10-4、ミュージアムショップの内容でございます。ほかの展覧会、記念館の印象やいろいろな接客等のイメージが、わりといい、4分の3から、かなり高いところに来ているんですけども、ミュージアムショップの内容は、若干、よいという率が低くなっているかなという……。

○議長　普通が多いですね。

○事務局　普通が多いですね。そういう状況でございまして、やはり、ミュージアムショップの感覚が、ほかの評価に比べて、若干低いということとは、今までの傾向と同じでございます。

次に、4ページの11、今後希望するテーマも、複数回答ではあるんですけども、書画、文学、人物、生涯、白樺派、新しき村、収集美術品、交友関係と、比較的バランスのとれたご希望。

これは、複数回答ではあるんですけど、全部回答しているというわけでもない。やはり、かなりバランスのとれたテーマを希望していて、記念館のテーマにかなり沿っているかなというところがあるかと思いますし、やはり、こういうバランスのとれた展覧会や事業展開は、望まれているんだなというところを酌み取れると思います。

次に、5ページ以降は、利用者の要望等の対応の報告ということで、回収率を上げ、また、同様の内容がありました件では、比較的、1件とか、2件とかにまとめさせていただきましたが、基本的に、今年から、コメントが非常に長くなっている。やはり、「文アル」さんたちのつながりたい、いろいろ言いたい、言っておきたい、感謝、応援といったような言葉が、多く見られるかと思います。

「文アル」で来てみたけど、やはり興味深いという内容のアンケートがかなりあって、私どもとしては、うれしい限りと考えております。

また、駅からの案内サイン、温湿度の管理、音に関するクレームが、相変わらず、あるかと思いますので、こういったことに関しては、やはり気をつけて、また、巡回などで管理したり、ちゃんと理由があることでございますので、そういったことをちゃんと説明をしていくということを努めていきたいと思っております。

また、反対に、サインがわからなかったということもありますが、このところの改修が進んだということもあって、サインがわかりやすかったというご意見も出始めております。それも、両極端なご意見ではございますが、やはり、改修しているということに関しての成果かなと考えております。

それまでは、もうほとんど、駅からのものはわからないということばかり寄せられていたのが、最近はありがとうございますというようなところで、適切なところにあってというようなご意見も、かなり含まれてきましたので、改修の成果かと考えております。

利用者アンケートのその他もろもろのご意見に関しては、またお時間のあるときに、ごらんいただければと思います。

次に、ミュージアムグッズコーナーの改修プランでございます。

先ほどのアンケートのとおり、グッズの売り場が、非常に統一感のないもので、私どもも、利用者にとって、やはり問題になるところであるということで、まずは改修のプランを考えていこうという突破口で、平成29年度にさせていただきました。

1ページにもございますように、現在のエントランスの状況を、やはり、客観的に見ていただくと、非常に散在した感じになっているということと、機能を満たすということで、その都度、調達された印象で、統一感のない状態であるということは、この改修プランの委託先からも言われたとおりであると認識をしております。

このプランを作成するきっかけは、やはり、先ほどのアンケートのコーナーがいまいちというようなこととか、もともと、私どもの記念館の本館、増築棟ができるときにも、グッズ販売の機能が想定されていない。ミュージアムグッズが、ここまで、博物館施設を訪れるお客様にとっての楽しみになったということが、ここ10年ぐらいだったと思うんです。グッズコーナーを設けた以降でも、またかなり飛躍的に、そういう楽しみになって

いる状況があります。

そういったことで、実篤記念館の全体の建物の中では、そういった機能が想定されていない状況で、どうしてもお金を取り扱うとか、商品管理の問題で、あそこのロビーのところに置かざるを得ないという状況が続いております。

場所を変えることはできないんですけれども、コーナーを少し改修することで、イメージアップ、整理をするということが必要であると考え、今回、改修プランをお願いしました。委託先に関しては、坂倉建築研究所という当館の設計を担った会社の設計を担当されていた方をお願いいたしました。

現在は、独立されておりますが、実篤記念館の増築のときの設計担当のお1人であり、また、その以降の大きな設備の改修や平成17年の浸水害のときの復旧工事の監理・監督などもやっていただいた服部さんをお願いいたしました。

服部さんのほうからは、改修プランの意図ということで、2ページ目に書いてあります。配慮すべき点は、素材感を大切にすることです。これは、実篤記念館をつくるに当たっての大きな魅力として、坂倉さんが、もともと建物のところで打ち出したものだとは思いますが、素材感を大切にすること、石、木、コンクリート、鉄、ガラスなどの素材の持つ力を表現したつくりということで、これは、記念館の建物自身も魅力的なものであるということでございます。

外部的な空間に対する配慮ということで、エントランスホールで、片側は全面ガラスでございます。床は、外部からつながる特徴のある石の仕上げというところで、半屋外的な印象、連続したような印象があるという場所でございます。

プランとしては、やはり、統一した什器による構成、機能をコンパクトにまとめて、エントランスホールをすっきりした空間にするということと、外とのエントランスホールとのつながり感を考えたものでございます。

2プランを出していただきました。1つは、既成の什器の選定による構成と、それが3、4ページでございます。

5ページ以降が、製作什器による構成例ということで、図面と製作什器の見本、図面でございます。

その中で、既成のものに関しては、1つのメーカーに関して、単独メーカーのラインナップによって選定するというところで、木質の素材にする。

ただし、今のほとんどのラインナップでは、表面が木目調のプリントシートになっている形に、どうしてもなるということでございます。そこで、ご提案いただいたものが、こういった木目調の什器ということでございます。

次に、B案は、もう記念館の必要機能をまとめた独自の什器、本物の木を使い、素材感、同材使用で、統一感のあるものをつくるという案でございます。

その改修プランのイメージとしては、2ページの図でございます。木製の特徴のあるものに、これは、たしか、高さが170ぐらいで、そんなに高くないもので、外の緑とか風景……。135でございます。135の棚で、どちらかというところ、外の緑とか光をうまく取り入れる形のご提案をいただいております。

ただし、費用に関しては、9ページでございます。既成の什器だけでも、100万円ちょっと、製作の場合、全てのフルラインナップだと、400万円近くになります。

特に製作什器に関しては、現在、大まかな見積もりでございますので、今後、地元の調布の製作加工をしている会社等と、幾つか見積もりをとって、もし実施するとしたら、なるべく縮減をする形で考えていきたいと思っております。

10ページとして、まとめということで、概算金額を示すように、既成の什器による構成は、金額的には抑えられますが、記念館の独自性、旧邸とともに、施設全体で大切にしてきた素材感や本物の持つ雰囲気には、そぐわないところがあります。比較的安価とはいえ、総額はかなりの金額となりますので、一度導入すると、容易に買い換えはできなくなることは考えられます。

記念館の価値を将来にも継続するために、単年度ではなく、多年度にわたる計画導入として、製作什器を主体とする改装の検討も必要も考えられますという両論併記の状態でございます。

記念館側としては、B案の製作のほうで、統一感のあるもの、集約して、なるべく、数としては、もしかしたら、減らされる可能性もありますが、機能的にはB案の製作什器のほうで、経費を縮減する方法で、多年度にわたってやっていきたいと考えております。

まずは、陳列棚を何台か入れることを、当初、平成30年度に考えております。

これは、もう既に予算化されておりますので、その予算の範囲で、やっていきたいと思ひますし、財源に関しては、特別会計の先ほどの490万円余りの繰越金を、まずは財源としたいと思ひます。

ただ、収益事業に関しても、毎年のように、こういうふうには収益があるかどうかということは、定かではないものですから、使い込みはできないと思ひますので、収支の様子を見ながら、少しずつ足していくということを考えていきたいと思ひます。

今年度、平成30年度の前半で、実施設計をつくり、いろいろディスカッションをしながら、必要なもの、不必要なもの、別なところに役割を分けるものというようなさまざまなディスカッションをしながら、実施設計をつくり、後半期につくれる予算の範囲で、棚をつくっていきたくて考えております。

ミュージアムコーナーの改修プランは、以上でございます。

このほかに、実篤記念館の3月以降、新聞や雑誌、誌上で紹介された大きな取り上げ記事でございます。読売新聞のほうでは、特別展前の「筆の向くまま」や八重桜の見ごろということで、大きなカラー版で出たということでございます。

また、もう一つは、絵手紙協会の季刊誌である『月刊絵手紙』のほうで、今回の展覧会とリンクした形で、小池先生にかかわるところと実篤にかかわるところが、一括で大きく記事として取り上げていただいておりますので、そちらもご参考までに出させていただきました。

『月刊絵手紙』と一緒に、私どものチラシも、絵手紙協会のほうから、送付していただいております。このゴールデンウィークの前半でも、絵手紙のファン層が、かなりご来館いただいている、それも、かなり遠くからも、ご来館いただいているようです。

以上、ご報告でした。

○議長 ありがとうございました。

ただいま事務局から報告事項のご説明をいただきましたが、何かご質問があれば、お受けいたします。

先ほどちょっとお話があった次の中期計画のお話で、追って、臨時の評議員会云々ということがあったので、何かスケジュール感があれば、少し教えていただければと思ったんですが。

○事務局 指定管理と、この基本計画の最終的なことで、8月の末から9月の前半に、臨時の役員会をさせていただく予定でおります。

指定管理の選定会の日程がまだ決まってない関係で、はっきりしたことは申し上げられませんが、早ければ、9月の後半に入ってくる。そうでなくても、10月には、選定会があると伺っておりますので、9月の前半ぐらいが、一番可能性が高いかなと考えております。

○議長 わかりました。ありがとうございます。

そのほか、特にないですか。

はい。

○瀧田評議員 ミュージアムグッズコーナーは、やはり、お金がかかっても、製作什器で、後に残るもののほうが、最終的にはいいだろうと思います。

○議長 それでは、以上ないと認めまして、報告事項も終了といたします。

以上で、本日予定しておりました案件、全て終了いたしました。

これにて、平成30年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館第1回定時評議員会を閉会とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。お疲れさまでした。

(午後5時42分 閉会)